

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）

中間評価結果

機関名	早稲田大学
事業概要	<p>総長直轄の研究力強化本部の下に「研究基盤整備部会」を設置し、強力な指導体制の下、4つの基本戦略を立てて本事業を実施する。</p> <p>戦略1：研究機器の一元管理、戦略2：技術職員・マネジメント人材の活躍促進、戦略3：研究データのマネジメント体制構築、戦略4：若手教育を主目的とした研修プログラムの体系化と技術認定制度の確立</p>
評価（総合評価）	コメント
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的・自律的な計画に基づいた、共用機器の効率的な整備・運用の取組が進んでいる。 ・ 概ね順調に進んでいるが、技術職員の育成や、研究力強化など、イノベーション創出に向けた他の政策との連携については更なる取組の強化が望まれる。人材育成などは、他機関の取組の取込みや連携も視野に入れた検討も望まれる。
評価（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統括部局として研究基盤整備部会を設置し、大学全体の方針の策定などを行い、統一した考え方で運用体制の構築が進んでいる。 ・ 事業の進捗管理が適切に実施され、共用設備の一元管理なども進んでいる。なお共用化が学内でも一部であり、更なる展開に期待したい。 ・ 機器メーカーと連携した学生研修プログラムや技術認定制度については、コロナの影響もあり検討に時間を要しているが、今後の推進に期待したい
② 経営戦略	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ グランドデザインを策定し、大学全体の設備の整備・運用・共用の方針を明文化することで、部局単位の輪番的な基盤整備から、全学的な研究戦略を踏まえた整備への転換を図っている。 ・ 今後、組織全体としての運営、PDCAサイクルの運用による具体的な成果創出にも期待したい。
③ 実施体制・仕組み	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総長が主導する研究力強化本部の下に研究基盤整備部会を設置することで、全学的な基盤整備の体制を構築している。WGも活用しつつ、更に活動を強化していくことに期待する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用状況管理システムにより、効率的に利用実績を把握できる仕組みを構築し、利用者及び運営側の効率化を図っている。
④ 人材育成	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術職員のマネジメント人材のキャリア形成、スキルアップの取組については、人材育成ポリシーの策定、キャリア設計などの人材マネジメント施策の一層の具体化などを含め、他機関の取組の取り込みや連携も視野に入れつつ、更なる検討が望まれる。 ・ 技術職員と URA の連携によるデータフォーマット標準化については、全学を上げての戦略的な推進に向けて、一層の加速が望まれる。
⑤ 資金計画	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共用設備の維持管理に必要な経費を利用料収入で賄う運用ルールの新設を行い、自律的な運用・整備の仕組みを構築している。 ・ 一元的な研究基盤管理体制の構築により、より効率的な機器整備を可能としている。 ・ 事業終了後の雇用計画やそれを支える資金計画についての具体化や、私学特有の課題の整理等について、更なる検討が望まれる。
⑥ その他の政策との連携	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共用機器から得られるデータのマネジメント体制・運用方法をモデルケースとした体制構築を進めている。 ・ 機器の効率的な運用・整備は進捗が見られるが、研究基盤をハブとした産学連携やスタートアップ支援、分野融合による研究の活性化等、イノベーション創出につなげるための取組は弱い印象であり、今後の取組の強化が望まれる。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学との機器の相互利用の検討も進んでいるが、ロードマップの具体化等を含め、実現に向けた更なる進展が望まれる。また、例えば他の私立大学など、その他の機関との積極的な連携・展開も更に期待したい。 ・ 民間資金の導入も含めた、共用機器を活かしたオープンイノベーションハブ機能の更なる展開が望まれる。
備考	なし